☆練馬区教育委員会教育長賞

『幸福度と税金の関係性について』

練馬区立開進第二中学校　三学年　小松　漣

僕はサッカーが大好きで自分でサッカーをしている時が一番幸せを感じる。

ふと日本の幸福度は世界の中で高い方なのか気になっていたところ、「世界幸福度ランキング」というものがあることを知った。これは、国際ハピネスデーの三月二十日に、国連が毎年発表している幸福度のランキングである。各国の国民の調査に加えて、様々な指標を元に幸福度を計るというものであり、今年は百三十七ヶ国を対象に調査が行われた。日本は四十七位、一位は六年連続でフィンランドだった。フィンランドの消費税は二十四パーセント、その他の税金も日本と比べると高いのにもかかわらず、一位を取り続けている。その理由や、日本との違いが気になったので調べてみた。

先程にも述べたように、フィンランドの税金はとても高く、一見すると「負担が大きく日々の生活が大変そう」と考えてしまうが、フィンランドのおよそ八割が、高い税金を払うことに納得しているというデータがある。その理由として、学費や医療費の無償化、各種手当など、わかりやすいサービスに還元されており、国民がリターンを直接的に実感しやすくなっているということが挙げられる。調べれば調べるほど羨ましくなるような独自のサービスが税金で行われていた。これなら幸せと感じることに納得である。フィンランドをはじめとした北欧では、社会保障がとても充実していて、生まれてから死ぬまで国に保証されている。「大きい負担」は同時に「多くの安心」をもたらしている。

僕はこれらのことを知って、自分の中の税金のイメージが大きく変わった。そして、あらためて日本の税金について考えてみた。どんなことで国民のために使われているのだろうか。それを実感しているのだろうか。

まっさきに思いうかんだのは私たち学生が使う教材の費用の負担。加えて医療や介護を支えるサービス、老後の補助となる年金などたくさんのことに税金は使われている。今まで税金が高い国は嫌だなと思っていたので、日本の税金もこれ以上上がって欲しくないなと思っていたが、国民から集められた税金が正しく国のために使われ、その結果、国民の生活が豊かで幸せなものになるというのは、とても素晴らしいことだと思った。みんなで困っている人を助け、支え合う、これが税金の目的なのだと実感した。

僕たちの生活は一生懸命働いて税金を納めてくれた「見えない誰か」に支えられていると思うと、普段の生活は決して当たり前のことではなく、たくさんの人の協力のもと、成り立っている、とてもありがたいことなのだと感じた。将来、自分も「見えない誰か」になって、未来を担う子供達や困っている人の力になりたい。一人でも多くの人が税を通じて「安心」して生活ができ、将来に不安なく「幸福」を得られる税金制度で有ってほしい。